

# 労働学校へ集まるう

日時・7月5日10時～  
場所・福祉センター

## 日刊 動労千葉

87. 7. 1  
No. 2590

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

信じられないようなデタラメが、大手をふってまかり通る。強制配転だ、出向だ、命令だ、処分だ、と人を人とも思わぬやり方が、何かあたり前のようになりまかり通る。"労働組合など認めない"、職場で組合運動などもつてのほかだ"と、違法行為が平気でおこなわれる。組合潰しの労務政策だけを入力されたロボットのような職制共が、労働者を虫ケラのように扱い、支配する。

こんなことはもうたくさんだ。もう我慢できない。しかし、「四・一」以降三ヶ月、潮は満ち、反撃への条件はいよいよ煮つまっている。当局のやり方は、「民間大手でも、これほどデタラメな労務政策をおこなっているところはない」と言われるほど、目茶苦茶を極めたものである。やればやるほど矛盾がつるのはあたり前のことだ。反撃の材料は山ほどそろっている。

七・一一労働学校は、いよいよ反撃への時を前にして、民間における戦闘的な労働運動の大先輩である佐藤さんの講演を中心に、闘いの原点にたちかえり、今、いつたい、いかに闘いを開始すればいいのか、その方向性を学ぶ講座である。

佐藤さんが常に訴えることは、労働運動とは、仲間を裏切らない、人間として恥を知ること。自分のために闘うと同時に、他人のためにも犠牲を恐れず闘えること。この二点である。あたり前のことが通用しなくなっている現在、労働運動の原点を再確認し、新たな気持ちで闘いを開始することが今ほど求められているときはない。われわれの未来は、自らの手でかちとる以外にない。労働学校へ、全力で結集を！

### 講師紹介



佐藤 芳夫 氏 58歳  
元 中労連議長  
元 総評全造船機械労組中央本部執行委員長  
現在は、1970年より  
総評全造船機械労組石川島分会委員長  
1986年より  
総評全造船機械関東地協東京地域分会委員長  
を兼務

### 市民が怒りの包囲闘争 校と軍事基地に、労働者

6・21 中央病院

豪雨突き2万5000人の輪

世界で初めて封鎖達成



六月二一日、沖縄において「嘉手納基地包囲行動」が二万五千人といい参加者をもって行われた。文字通り「極東の侵略最前線基地」である「嘉手納」を一人ひとりが手をつなぎ、人の鎖で完全に包囲するという行動だ。

① 大失業時代に俺たちの労働組合を、佐藤芳夫氏  
プログラム  
② 動労千葉の新たな闘いの課題と展望・中野香里氏

この日、沖縄地方は梅雨明けの大雨にみまわれ、嘉手納周辺では場所によっては、腰までつかってしまいう大雨。にもかかわらず、労働者の動員以外にもマイカーを乗りつけ、家族づれで参加する人が目立つなどこの日の行動が、「天皇沖縄訪問」反対の怒りの決起へと結びつこうとしている。

また、六月二三日は、一九四五年八月十五日、終戦を前にして沖縄戦が終結した日である。沖縄戦では、日本軍による住民虐殺、自決強要も行われ、沖縄県民二十万人が殺された。沖縄県民の敵は米軍ばかりでなく日本軍も敵だった。そうしたなか天皇は、天皇制を護持するために、沖縄戦を長びかせ、広島・長崎の原爆投下までいたらしめ、そして、沖縄をアメリカに売り渡したのである。戦犯天皇の沖縄訪問を断じて許すな。